

# 帝大震災一覽

おんふ  
やけた  
三才整

根岸ニ松軒業

金拾銭

八かいから折れた  
あつた倒れた  
やけやけてけが  
も多し  
ふまおとされた  
首のおちた  
焼灰がとんで  
効力の枯れ  
花柄も上り  
おんふを都知  
一週間あまり

十二階  
市内の橋々  
屋根瓦  
大水戸  
金庫  
たつまき  
罹災民  
玄米食

世界上下通信を助  
どいふもかこいふも  
又来たおのり  
北の氏神さま  
まッききかやけた  
をいこと  
すま支拂  
しんきふでま  
七十六万冊をやいた  
避難民ふはれた  
大いそであつた  
急いしらい集合

無縁電信  
左の人のビラ  
神田明神  
警視廳  
生命保険金  
金庫あけ業  
帝大図書館  
鴨  
江島沈没  
荷馬車

救護品が届り  
処々不建つた  
おひくあつた  
火中おやけか  
わけあふ多し  
道おしん  
銀行の拂い戻  
一寸おあいた  
地が二尺さがりた  
無法ものあつた  
あきつらぞら  
責任の自殺  
救護電報一着  
当時品切  
大道商のさき  
芝浦小山  
公設バラック  
火事どろ  
住友銀行支店  
やけあつた  
工兵隊  
百回以内  
骨董方面  
本所方面  
自警だん  
家  
山内相生署長  
北米合衆国  
煙草ろうそく  
西武といふ

ひん者のどいふ  
助ける神有り  
立のさきの不便  
公定ねん甲子  
おとこあだ  
田舎のせきあか  
おんふ  
東京以外快  
全滅 河島小田原真鶴南朝夷  
殆全滅 横濱横須賀腰越茅崎  
平塚熱海箱根湯本下鶴岡北  
奈倉近布良  
以上は皆東京以上被害大し地なり

時刻 大正十二年九月  
一日午前七時五分  
相州小田原と巨州  
大島の間に海面

震源

本橋のたつた  
死者三万  
五百六十人  
八百五十人

所被服廠跡  
公園池

非常徴 遺令  
戒嚴 嚴令  
流言飛語取締令  
支拂延期令  
暴利取締令

神田和泉町  
浅草寺  
元島

戒嚴司令部  
帝都復興協議會

つぶれた中  
二百五十人  
腰を折つた  
あつた曲つた  
信用をおた  
たがり運  
東京の大事が見え  
大抵おやけた  
早く借付た  
湖のちい入  
大はなすの

内外ビルディング  
東京會館  
鍊道線  
煉瓦建築  
品川氏銅像  
代福島  
土流  
救護團  
かんづめ類

軍用通信の功  
あつた立つ  
るるかくと  
南の氏神さま  
スハ地震ソノ火事  
をいこと  
中々支拂は  
大道ちい  
二百年来の  
やけ死んだ  
おも荷小小つけ  
おんふのせ

飛行機  
立のき  
津浪の囀  
日枝神社  
齒科専学校  
築地本願寺  
火災保険金  
自轉車直  
湯島聖堂  
好花屋大衆  
朝鮮人事件  
避難汽車

十月十七日始めて  
青天の（キレキ）  
保護をぬい出た  
地震おびりし  
くものすの如やけた  
過々の立番  
郵便貯金非常掃  
たのぬ多お  
意外  
ほくくもの  
立退かす火を  
九月七日半旗を  
多時品切れ  
よしおん

日谷野外劇  
焼残り爆破  
主裁者  
帝回ホテル  
電線  
歩兵隊  
三十四以内  
美術家  
宮城前  
甘粕事件  
大工左官瓦屋  
住友商店業務課長  
佛蘭西  
砂とら  
しん牛乳店

ひん者つうつた  
おんふのあつた  
慰問代  
りまも  
か不運菓切  
未曾有の安  
野菜菜  
ららみ出  
あやしい女あり  
大坂おとし  
長た師匠  
一本見せるの  
望遠鏡

東京肝要な数字  
焼けた南北 二里廿八町  
焼けた東西 二里  
火元 百三十四ヶ所  
焼失戸数 四万七百餘戸  
焼死人口 判明、六万百人

米英佛  
支独和  
大公使館

著作権所有不許複製

發賣所

東京市下區下根岸町伊勢原立退所  
石井善地